

令和2年度新・放課後子ども総合プラン指導者研修会（紀北会場）

1. 日時 令和2年11月1日（日） 13時30分～16時30分
2. 場所 岩出市総合保健福祉センター
3. 参加者 放課後子ども教室、土曜日等子ども教室、いきいき交流教室、
子どもの居場所づくり等の関係者
放課後児童クラブ関係者 合計62名

4. 行政説明

- ◆和歌山県教育委員会生涯学習課 社会教育主事 安保 敦史
「子供が楽しく、喜びあふれる居場所づくりをめざして」 [【PDF】](#)
- ◆和歌山県福祉保健部子ども未来課 副主査 山野 晃弘
 - ・新型コロナウイルス感染症の予防のために注意すべきことについて
 - ・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の改正について
 - ・放課後児童健全育成事業における事故の報告等について [【PDF】](#)

5. 講演「思いを伝えあえる子供をめざして ～子供たちの心を知る～」

〈講師〉一般社団法人 司法心理研究所 臨床心理士 桧谷 真美 氏

○「生活の中で子供に見られるサイン（行動）」

- ・自分の思うようにならないと怒り出す子供は、環境やその場の状況などの変化に弱く、想定外のことが起きると混乱する。
- ・欲求のコントロールを学ぶ機会が少なくなると我慢するのが難しくなる。
- ・衝動的に暴力を振るう、暴言を吐くなどの言動は、子供自身が親や兄弟から暴力を受けている可能性がある。
- ・見通しを持つ力が弱く、怒られる事への恐怖と自己防衛から嘘をついてしまう。
- ・問題解決の経験不足から、不安が強く出てしまい、一人では動けない子供がいる。子供が自分で対応する前に大人が先に手を出してしまっている場合が多い。
- ・自分の考えが言えない子供は、抽象的なものの言語化が苦手な自信が無く、自分の考えを認めてもらった経験が少ない。



以上の行動背景には、子どもの発達課題や育ってきた環境の問題がある。子供の表面に現れた行動だけで判断せず、行動に至った背景を理解することが大事である。

○「子供の心理的発達」

- ・適切な育児が行われないと、愛着形成が十分に行われず「愛着障害」へと繋がり「不安感」を植え付ける。
- ・基本的な生活習慣である食事、着脱衣、排泄等で失敗体験が増えると身体のコントロールができなくなり、不安が増す。
- ・大人がやり方を教えないのに、失敗を怒ってしまうと、子供の自信低下や過度な緊張につながる。

- ・不安や緊張が重なった結果、子供が反動的になったと感じ、子供に怒ることが増える
と、さらに関係が悪くなってしまう。

子供の心理的発達には、両親からの十分な愛情があり、子供自身が自分の身体をコントロールできる喜びを覚え、自己有能感や自信を持つことが重要である。また、子供が失敗を恐れられないようなサポート方法や問いかけ、褒めることが、子供の良い行動を増やすことに繋がる。

○「子供が本音を語る聴き方」

- ・大人が「正しいこと」を言いすぎてしまうと、まだ未熟な考えを持つ子供たちは自分の話ができなくなる。
- ・思春期の子供たちの発する言葉の意味は「言葉通り」ではないことがあり、「本心」なのか「言っただけ」なのかを見失うことがある。
- ・子供の心にあるものを言語化できないとき、無理に語らせてしまうと、本音とは違うことを言ったり語らなくなったりする。

子供が本音を語れるようにするためには、子供の考えを引き出す問いかけをするなど聴き上手になることが大切である。また、子供が語らないことを受け入れ、無理に聞き出さないことも必要である。子供が語らないことを受け入れる信頼関係を形成することで、子供は安心し、自ら問題を解決して課題を乗り越えていく力が育つ。



6. 意見交換会

- ①参加者より…場面緘黙の児童がいる。うなずき等で意思表示をする。職員の関わり方で
注意点や工夫できる点を教えてほしい。
 桧谷氏より…身振り手振りで意思表示してくれるのは、関わりができていて良い。場面緘黙がある子供は、先生とは話さないが、どこかで話すことはある。長い付き合いがあつて、お互い相手の事を理解していれば話す。小学校低学年だと、関わっている時間が短い相手には、何を質問されるのか分からない、安心できないといった不安がある。子供が安心できると話し、大人からの質問のパターンも理解すると話すこともある。子供との関係性にも関わるので無理せず、質問に対する答えの選択肢を作る工夫や、話しかけるタイミングに気を付けていく。
- ②参加者より…小学生の男子が、他の男子に暴力をふるい、暴れる時がある。学校で何かあると、放課後活動に来た時から機嫌が悪い。どのように対応したら良いのか。

桧谷氏より…学校で甘えられる環境がなく、放課後活動でその思いが出てきているのではないのか。その子供に何がしんどいのか、なぜ暴力をふるうのかを聞きながら、気づかせていく事が大事。

- ③参加者より…「できない」と言う子に対して、一緒にやってみることを勧めるが「どうせできない」と言い取り組まない。

桧谷氏より…何度もチャレンジしたが上手にできないということであれば、もっとゆっくり時間をかけて、スモールステップで取り組んでいく事が必要。「まずここまでやっていこう」と声をかけて誘っていく。それでもやらない子供は自己愛が低い可能性がある。まず段階をいくつかに分けて取り組んでいく。

- ④参加者より…騒がしい子供が1人いるとみんな連られて騒がしくなってしまう。どのように注意すればよいのか。

桧谷氏より…状況にもよるが、騒がしい子供に引っぱられていくのが子供である。子供たちは、良い悪いの判断をすることが難しく、どちらかというとき激しい子供に引っぱられる。注意をするのではなく、みんなで話し合いをさせて考えていく事が必要。

- ⑤参加者より…特別支援学級に通う子供がいる。どのような障害があるのかはわからないが、自分のやりたいようにしか動かない。思い立ったらすぐに行動する。どのような声かけをすればよいのか。

桧谷氏より…発達に課題のある子供は自分のタイミングでないと動けない場合がある。特別支援学級で学んでいるのであれば、学校と情報交換をして連携していく。放課後活動での行動が学校でも同じなのかを知ることも必要である。子供に対しては、「この時間は自分の時間」、「この時間はみんなと過ごす時間」と明示する。